

## 芳香性シクラメン種間雑種の開花特性

澁澤直恵

(園芸部)

## 【目的】

シクラメンは、東京都の主要な花き園芸鉢花であり、直販による販売が行われている。東京都オリジナルの特性をもつシクラメンを育成することにより、新しいタイプのシクラメンを求める顧客ニーズを満足させ、シクラメン産地の一層の活性化を図る。

新しいタイプのシクラメンとして栽培品種と芳香性シクラメン原種 *C.purpurascens* との種間雑種を作出し、芳香性シクラメンを作出してきた。シクラメンの場合、購入後も持続的に開花し、長く観賞できることが商品価値として重要である。そこで、2000年に作出した系統について、出荷後である12月以降も含めた年間の開花数の調査を行い開花特性を明らかにした。

## 【試験方法】

2000年に選抜し、2000年2月から培養を開始して得られた培養苗6系統を2001年3月に馴化、温室内での栽培を開始した。5月に鉢上げをした後ハウスに移し、9月に6号鉢に鉢上げをした。液肥は6000倍の20-20-20のハイポネックスを週1回与えた。冬季は10℃で加温した。開花数の調査は8月20日から毎週40~50個体ずつ行った。コントロールとしては栽培品種ビクトリアを用いた。二度咲きした系統については、各開花時期の花きおよび葉の形態を46個体を用いて調査した。

## 【成果の概要】

1) 種間雑種の年間の開花数については次の2タイプが認められた(図1)。

タイプ1: 極早生で二度咲きするタイプ。一度9月に多く咲くがその後開花数が減少し、12月に再び開花数が増加し始め3月には鉢あたりの開花数が50花以上にもなる。

タイプ2: 早生で栽培品種より開花が早く始まるが、開花数はその後ほぼ横ばい状態で春まで開花が継続する。

2) タイプ1は2系統、タイプ2は4系統で認められた。二度咲きするタイプ1について9月開花時と3月開花時の花きおよび葉の形質を比較したところ、花弁長、花弁幅、花茎径、花茎長、葉長、葉幅、葉厚、葉柄径、葉柄長のいずれも3月開花時のほうが9月開花時の場合よりも有意に大きくなった(表1)。

3) 以上のように、種間雑種は出荷のちの開花特性について大きく2つのタイプが存在することがわかった。直販の場合、長く開花し観賞期間の長い個体が求められることから、12月以降に多く開花する系統を選抜する必要がある。また、シリーズ化する場合、開花特性が同じタイプに属する系統を組み合わせる必要がある。今後の系統選抜については、これらの点についても留意した選抜を行う必要があると考えられた。

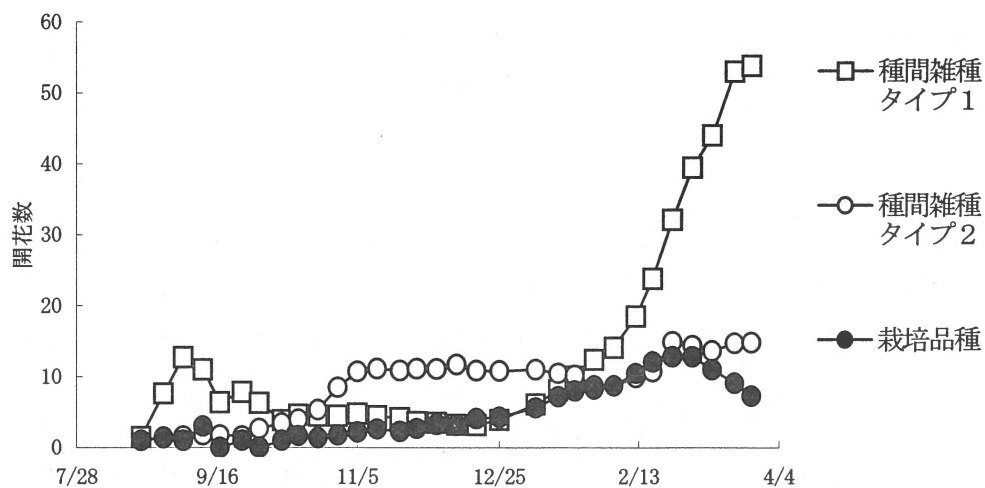


図1 株あたり開花数の推移

表1 種間雑種タイプ1の9月開花, 3月開花時における花きおよび葉の形質

		9月開花時	3月開花時	有意差
花卉長	(cm±sd)	2.88±0.22	3.79±0.21	**
花卉幅	(cm±sd)	1.62±0.29	1.85±0.22	**
花茎径	(mm±sd)	2.25±0.44	2.70±0.45	**
花茎長	(cm±sd)	14.05±2.34	16.03±2.60	**
葉長	(cm±sd)	6.74±0.63	7.89±0.69	**
葉幅	(cm±sd)	6.48±0.53	7.41±0.64	**
葉厚	(mm±sd)	0.43±0.07	0.57±0.08	**
葉柄径	(mm±sd)	2.15±0.37	2.93±0.36	**
葉柄長	(cm±sd)	7.29±1.00	11.18±1.24	**

注) \*\*は1%の危険度で有意差があることを示す。